

教材教具および題材	学部	授業名 (主たる教科領域)	執筆者
ボウリング ～10までの数(5といくつ)～	中	ことば・かず (数学)	市原成悟

<ねらい>

5をかたまりと捉えて、10までの数を数えたり、感覚的に分かったりすることができる。

<内容(作成方法・使用方法・工夫点など)>



- プラスティックのピンを使用。
- 5本は一度に倒れるようにした。
- 5本は少しでも当たれば倒れるように底に細工をし、5本一度に倒れるようにつなげた。(5のまとまりを意識できるように数字を書き入れた。
- 玉はプラスティックのボールに石を羊毛で包んで入れて重くした。
- 倒れたピンを見て倒れた本数を聞き、「倒れたのは、5と3!」と確認して次に両手指で示し、「5・678」と5を意識付けさせた。



<良かった点・改善点(児童生徒の反応を含め)>

- 5といくつの数え方が繰り返されるので、数え方が定着しやすかった。
- 倒れた本数を見てすぐに答えられる生徒が増えた。
- 分かりにくい生徒には、自分の指で本数を立ててから5と(あと)いくつかを数えさせた。
- ピンを確認した後、ホワイトボードにピンの絵や磁石などへ置き換えたり、数字へで示したりするようにしていった。

<その他(材料、費用、購入先等)>